

第43回 原子力委員会定例会議 議事録

<日時> 1993年11月2日(火) 9:40～

<場所> 原子力委員会会議室

<議題>

(1) 低レベル放射性廃棄物処分の今後の考え方について

<審議事項>

(1) 低レベル放射性廃棄物処分の今後の考え方について

江田委員長から、低レベル放射性廃棄物海洋投棄を巡っての現状について発言があり、事務局から低レベル放射性廃棄物の今後の考え方について説明がなされた上で審議を行ったところ、

- ・今回のロシアによる放射性廃棄物の海洋投棄についての問題点は、ロンドン条約のモラトリアム決議に違反していること、国際原子力機関の基準等に則っていないこと、投棄に関する十分な情報が提供されなかったこと等である。
- ・科学的技術的観点からは、低レベル放射性廃棄物の海洋投棄そのものは、国際原子力機関の基準等に則って行えば、公衆の健康に特段の影響を与えないものではないという考えは現在も同じである。
- ・原子力委員会としては、科学的技術的な観点のみならず、政治的、社会的観点も考慮する必要がある。
- ・今後、アジア諸国等の原子力平和利用が進展することが予想されるが、これらを含め政治的情勢等が大きく変化場合には、再度海洋投棄について全世界的に考えることが必要になる可能性もある。
- ・地球環境規模で考えれば、低レベル放射性廃棄物の海洋投棄は、科学的には炭酸ガス、硫黄酸化物及び窒素酸化物等の排出と同様の問題であり、このような観点からの議論も重要である。
- ・地中のウラン資源を利用し、その廃棄物を地中に埋設するという考え方と同様に、将来、海中のウラン資源を利用できるようになったとき、その廃棄物は海中に処分するという考え方もできるかもしれない。
- ・現状認識を踏まえれば、海洋投棄は選択肢としないものとするが、将来、政治的、社会的な情勢等が大きく変化した場合には再検討を考慮することが重要である。
- ・原案中「国際協調の観点から、」とあるのは、国際協調の内容に幅があ

り、また、国際協調以外の観点も含めて判断しているので、削除した方がよい。

等の意見が出され、原案の下から4行目の「国際協調の観点から、」を削った上で決定した。